

113

2015年10月15日(木)

アフリカ史から世界史を考える

竹沢尚一郎

(国立民族学博物館・教授)



近年、グローバルストーリーや大西洋交易など、世界史を書き換える試みがあいついでいる。そのときアフリカはどのような位置を占めるのか。他者によって記述されてきたアフリカが、記述主体になるにはなにかが必要か。それを考えたい。



アフリカ



地域研究会

114

2015年11月19日(木)

アフリカ都市の若者たちへの接近

——ウガンダの首都カンバラの
ショー・パフォーマンス生成の裏側にみる社会関係

大門 碧

(京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員)



ウガンダの首都カンバラでは、日本の大衆文化カラオケに由来した、ショー・パフォーマンス「カリオキ」が盛んに公演されている。このショーの公演準備や本番の様子を参与観察することで見てきたのは、担い手である若者たちの柔軟な社会



関係であった。これまでもアフリカ都市民が互いの差異をそのままにして混在する姿が報告されてきたが、本発表ではショー・パフォーマンスの舞台裏からその様を具体的に示す。それは同時に、話を聞くだけでは理解を許さないアフリカ都市の若者たちに近づく挑戦でもある。

115

2015年12月17日(木)

漁民のサンゴ礁保全

——NGOとの知識交換にみるコミュニケーションと
ディスコミュニケーション

飯田 卓

(国立民族学博物館・准教授)



21世紀に入ってから、ユニークな生態系を抱えるマダガスカルは、外交と経済発展の手段として自然保護を打ちだすようになった。南西部の漁村でも、イギリスを本拠とするサンゴ礁保全団体がプロジェクトを進め、「ローカル型管理による海洋保護区(LMMA)」を実現している。ローカルの漁民がプロジェクトをいかに理解し誤解するかをみることで、開発や文化変容を論ずる手がかりとする。



116

2016年1月21日(木)

アフリカの生活と学校

——教育は投資か消費か？

澤村信英

(大阪大学大学院人間科学研究科・教授)



アフリカにおいても初等教育は普及し、学校は行かなければならない場所になった。生活の苦しい家庭でも、限られた家計をやりくりして子どもを学校へ送っている。家族にとっては子どもに「投資」している面もあるが、結果として「消費」になることが多い。ケニアのマサイランドやキベララムでの調査経験から、就学に対する子どもの気持ちと保護者の意識を探索してみたい。

参加無料
申込不要

117

2016年2月18日(木)

アジアにおけるアフリカ研究の国際ネットワーク形成プロセス

——ヨーロッパとの比較を通して

岩田拓夫

(立命館大学国際関係学部・准教授)



本発表では、近年世界的にも関心を惹き始めるようになった、アジア諸国におけるアフリカ研究の国際ネットワーク形成プロセスに関して、先発例であるヨーロッパ諸国間のネットワーク形成のプロセスとも比較しながら整理する。本発表における事例を通して、グローバル化時代の地域研究の国際ネットワーク形成の可能性と課題について考察する。

